


京都府農業普及指導活動事例集(平成27～28年度)


平成29年7月20日
京都府農林水産部流通・ブランド戦略課


<目次>

- 1 消費者への農業・農村の魅力発信と地産地消の推進 ……1
(京都乙訓農業改良普及センター)
- 2 京都やましろ産野菜の生産振興と産地力の向上 ……2
(山城北・南農業改良普及センター)
- 3 地域資源をいかした都市農村交流の仕組みづくり ……3
(南丹^{たから}農業改良普及センター)
- 4 「万願寺甘とう」「黒大豆枝豆」の産地強化 ……4
(中丹東・西農業改良普及センター)
- 5 丹後産茶の生産安定とブランド確立 ……5
(丹後農業改良普及センター)


普及課題	消費者への農業・農村の魅力発信と地産地消の推進	
普及センター名	京都乙訓農業改良普及センター	
普及活動期間	平成27年度～平成29年度（継続中）	
普及対象	市町村等	集 落 ・ 集 団
	京都乙訓地域	小規模農産物直売施設 山国さきがけセンター 企業食堂、食育活動推進組織、起業活動に取組む農家
活動の概要	<p>基礎講座による魅力ある直売所づくり ○講座を6回（㉗3回、㉘3回）開催し、農薬安全使用、ポップ作成、食品表示の方法などを情報提供した。</p> <p>体験プログラムによる消費者交流推進 ○消費者との交流により山国さきがけセンターのファンを増やすため、新施設を利用した体験プログラムづくりを支援した。</p> <p>食育活動支援、企業食堂で地元産野菜のPR ○米粉生産グループと小中学生の加工用トマト栽培・米粉ピザづくりなど食育活動を支援した。 ○保健所、教育局と協力して、地元企業の食堂で地元産野菜を活用した料理の提供等を行い、従業員の食生活改善と地元産野菜をPRした。</p> <p>加工講座の開催 ○農産物加工に興味のある農家向けに加工講座を開催。また、個別に販路拡大を支援した。</p>	
成果	<p>基礎講座による魅力ある直売所づくり ○基礎講座に㉗延べ44施設、㉘延べ90施設が参加。このうち㉗9施設、㉘11施設が新品種の栽培を始めたり、販売方法を工夫するなど魅力ある直売所づくりに向けた取組を始めた。</p> <p>体験プログラムによる消費者交流推進 ○味噌づくり、納豆餅づくりなど3つの体験プログラムを作り、2つを開催した。また、地域外参加者を増やすため、広報方法など課題を明らかにできた。</p> <p>食育活動支援、企業食堂での地元産野菜のPR ○トマト栽培を通じて、小中学生の食への関心が深まった。 ○企業食堂では、野菜を多く使ったメニューが増え、食生活改善に向けた取組が進んだ。</p> <p>加工講座の開催 ○8名が参加し、うち3名が加工に取組意欲を示した。個別に販路拡大等を支援した農業者4名の取組が進んだ。</p>	
今後に残された課題	<p>今後に残された課題</p> <p>標題 「POP作成」の講義</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 直売施設の魅力向上 体験講座の実施と参加者の確保 食育活動の支援 加工を主とした起業活動の支援 		

㉗：平成27年度、㉘：平成28年度を示す（以下同様）

普及課題	山城北、南農業改良普及センター	
普及センター名	京都やましろ産野菜の生産振興と産地力の向上	
普及活動期間	平成27年度～平成29年度（継続中）	
普及対象	市町村等	集 落 ・ 集 団
	山城広域振興局管内 市町村全域	山城地域野菜販売農家、九条ねぎ部会 万願寺とうがらし部会、 えびいも栽培農家
活動の概要	<p>消費者と生産者交流会の開催 ○やましろ産野菜の知名度向上のため、京やましろ新鮮野菜ファンクラブ（平成27年度発足）を対象に消費者と生産者の交流会を開催した。</p> <p>九条ねぎの品種比較と赤色被覆資材の実証 ○やましろ産九条ねぎに適した秋冬作の品種比較を行った。また、アザミウマ類被害軽減に向けて簡易ネットハウスで赤色被覆資材の実証を行った。</p> <p>新規栽培者の掘り起こしと栽培技術向上への支援 ○万願寺とうがらし・えびいもの栽培技術の向上のため、各地域で栽培研修会や目合わせ会、出荷調製研修会を開催した。</p>	
成果	<p>消費者と生産者交流会の開催 ○京やましろ新鮮野菜ファンクラブ会員は97名、登録農家数は957戸、ロゴマークは多くの山城産野菜に添付され知名度が向上した。交流会では、減農薬栽培などの説明を通して相互理解を深めた。</p> <p>九条ねぎの品種比較と赤被覆資材の実証 ○九条ねぎ系など9品種を比較し品種特性を明らかにした。</p> <p>新規栽培者の掘り起こしと栽培技術向上への支援 ○万願寺とうがらしの栽培者が増加し、栽培技術研修会等の効果で基本技術が習得された。えびいもは京田辺市で機械導入による省力化栽培を目指す農家があらわれた。</p>	
今後に残された課題	<p>標題 消費者と生産者の交流会（久御山町、ねぎ）</p>	
<p>1 「京やましろ新鮮野菜」の認知度の向上 2 品質の良い九条ねぎの安定的な出荷 3 えびいもや万願寺とうがらしの反収の向上</p>		

普及課題	地域資源をいかした都市農村交流の仕組みづくり	
普及センター名	南丹農業改良普及センター	
普及活動期間	平成27年度～平成29年度（継続中）	
普及対象	市町村等	集 落 ・ 集 団
	南丹市 京丹波町	農家民宿 教育体験受入農家
活動の概要	<p>宿泊型教育体験の取組推進 ○京都丹波・食と森の交流協議会と連携し、新たに宿泊型教育体験に取り組む地域の掘り起こしを行った。 ○普及センター独自の取組みとして、指導農業士への受入を勧誘するとともに、受入後に農家の声を聞き取り、次年度継続に向けた環境づくりを行った。 ○「地域ぐるみ」の受入体制づくりのモデルとして、美山町T地区の仕組みを学び、京丹波町U地域に適応した仕組みに加工し、提案することとした。</p> <p>農家民宿の実態把握 ○南丹管内の農家民宿の実態を把握するため、振興局地域づくり推進室と連携し、聞き取り調査を行った。</p> <p>重点世帯の伴走支援 ○農業・農村体験で地域活性化を目指す農家民宿Oには、レンゲ栽培支援、獣害対策について、また農家民宿Kには、季節ごとの体験メニューづくり、PR、お試し体験者の意向調査等について伴走支援した。</p>	
成果	<p>宿泊型教育体験の取組推進 ○指導・女性農業士のT夫妻が中心となり、2集落がまとまって教育体験を受入ることができた（U地域の8集落中、㉗2集落8戸、㉘4集落10戸で実施）。 ○受入農家への聞き取り調査から、「地域ぐるみ」での受入体制づくりへの要望が強く、継続的な支援が必要であることが分かった。</p> <p>農家民宿の実態把握 ○農家民宿はタイプ別（地域活性化型又は個人経営型、農業・農村体験型又は他産業経営型など）に分類できることが分かった。</p> <p>重点世帯の伴走支援 ○農家民宿Oが、地域の農家の支援を得て、レンゲ栽培を行い、獣害防止柵を設置した。 ○農家民宿Kがお試し体験を開催し、京阪神の大学生や家族などのリピーターが誕生し、米の小袋販売にもつながった。</p>	
今後に残された課題	<p>今後に残された課題</p> <p>○地域ぐるみの受入体制のモデルを普及する ○農家民宿Oのレンゲ栽培をS地域に普及拡大し、地域活性化につなげる ○農家民宿Kの取組みをM地域全体の取組に広げ、地域の活性化につなげる</p>	
	<p>標題 農業士が夫婦で取り組んだ教育体験の受入報告</p> 	

平成27～28年度京都府普及活動事例集

普及課題	「万願寺甘とう」「黒大豆枝豆」の産地強化	
普及センター名	中丹東、西農業改良普及センター	
普及活動期間	平成27年度～平成29年度（継続中）	
普及対象	市町村等	集 落 ・ 集 団
	福知山市、舞鶴市 綾部市	万願寺甘とう生産者 京 夏ずきん・紫ずきん生産者
活動の概要	<p>生産量向上に向けた重点指導 ○万願寺甘とうは、技術情報発行41回（㉗13回㉘28回）、実技や作業映像による講習会支援、栽培経験別に重点指導対象を絞り、技術指導や改善策を提案した。 ○万願寺甘とうの省力化支援で平面仕立て技術情報発行やマニュアルを作成した。 ○黒大豆枝豆は、経験の浅い生産者を中心に重点指導を行った。また、生産者にアンケートを実施し、収量向上のポイントを整理した。</p> <p>黒大豆枝豆の品質保持技術の普及 ○大規模化・品質管理リーフレットを全戸に配付し、予冷の重要性を啓発した。</p> <p>黒大豆枝豆の新品種普及 ○紫ずきん3号の展示ほ22か所を設置や講習会・互見会により品種特性の普及を図った。</p>	
成果	<p>生産量向上に向けた重点指導 ○万願寺甘とうは出荷量が㉗㉘2年連続で過去最高、販売金額は2年連続で3億円以上と目標を達成した。 ○黒大豆枝豆の出荷量は伸び悩んだものの、育苗の失敗や開花から莢肥大期の水不足など減収に繋がる技術課題が明らかにできた。 ○黒大豆枝豆の高収量者アンケートより、ほ場の選択やかん水、防除といった基本技術の励行が収量と直結していることがわかった。</p> <p>黒大豆枝豆の新品種普及 ○紫ずきん3号の展示ほ設置農家およびその他の生産者の感想・意向を聞き取った結果、概ね好評価で期待するとの感想だった。</p>	
今後に残された課題	<p>標題 3億円達成記念生産者大会で更なる収量向上の提案</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・10a当たり収量の向上 ・労力不足栽培者へ万願寺甘とう平面仕立て栽培を普及 ・万願寺甘とう10a以上規模における労働、収穫体系モデルの確立 ・紫ずきん3号の栽培技術支援と特性啓発 		

普及課題	丹後産茶の生産安定とブランド確立	
普及センター名	丹後農業改良普及センター	
普及活動期間	平成27年度～平成29年度（継続中）	
普及対象	市町村等	集 落 ・ 集 団
	京丹後市	茶生産農家4戸
活動の概要	<p>丹後地域の茶生産は、丹後国営開発農地を中心に平成16年から始まったが、冬季の積雪や害虫被害等で収量・品質が伸び悩んでいる。そこで、普及センターと研究機関から成る課題解決のためのタスクチーム活動を中心に、関係機関と協力して産地力強化と販売強化に取り組んだ。</p> <p>タスクチームによる茶生産の改善指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度初めに「丹後茶栽培の手引き」を配付し、適切な栽培管理を徹底した。 ○各種病害虫の発生予察調査、チャゲコゾラミの黄色粘着トラップ調査、クシロカガラムシの調査による適期防除指導を行った。 ○施肥の改善実証は、SOFIX土壌診断等による実態把握。 ○茶園カルテを作成し、生産者との個人面談を行って現状認識の共有化を図った。 <p>茶流通業者との交流による産地力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○丹後地域は、流通業者が在住する山城地域との距離が遠いことから、宇治茶GAP、輸出茶の取り組みや茶商訪問を行うことで茶流通業者との交流等を図り、ニーズに即した生産に取り組んだ。 <p>リーフ茶の販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○法人の経営安定に向けて、地元直売所による販売や地元観光業者との連携による体験ツアーなどの支援を実施した。 	
成果	<p>タスクチームによる茶生産の改善指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○27年、28年生産量は増収傾向で、市場評価では「生葉がやわらかく、味が乗っている」との評評を得た。生産者の意識も「良いものをつくれれば、品質なりに評価してもらえる」に変化している。 <p>茶流通業者との交流による産地力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宇治茶GAPや、輸出茶への取り組みを始めている。流通業者との交流会や茶商訪問では、品質の向上と生産量の増加などに対する期待の意見が得られた。 <p>リーフ茶の販売強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○販売額は年々増加している。 	
今後に残された課題	<p>今後に残された課題</p>	<p>タイトル 「丹後茶栽培の手引き」</p> <p>タスクチームの茶園巡回指導</p>
<p>○産地として増収と品質向上が必要である。</p> <p>○生産者の基本技術の習得と実行、改善意欲の喚起につなげる。</p> <p>○茶流通業者のより一層の理解とリーフ茶の販路の拡大</p>		